

## 1 はじめに

高等部では、これまでキャリア教育の観点から授業を考える取組を進めてきた。

平成24年度はキャリア教育の視点による授業づくりと授業改善について「授業における観点位置付け・授業改善シート」を活用し、どの授業にもキャリア教育の要素があるという「気付き」を促し、キャリア教育への理解を深めた。平成25年度には、生活単元学習を中心に「単元における観点別位置付けシート」を整理し、キャリア教育の「4領域8能力」や観点などがこれまで行われてきた高等部の教育活動の中にどのように含まれているかを確認した。平成26年は、産業科の作業学習を中心に新しい作業種目の検討を始め、時期を同じくして始まった「愛顔のえひめ特別支援学校技能検定」（以下、技能検定）に積極的に取り組み始めた。普通科も清掃に関して日々の教育活動の中でどのように生かすか、実践的な取組を行った。平成27年度には普通科では、「単元における観点別位置付けシート」について、「日常生活の指導」、「総合的な学習の時間」を整理した（詳しくは後述）。また、産業科では、技能検定に取り組む授業を継続して行った。上岡(2013)は、「キャリア教育とは、児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育であり、勤労観は、子供にとって最もふさわしい生活集団の中で自分の役割を主体的に果たす生活が土台となり、主に生活単元学習で育てる。また、職業観は、勤労観が育っていることを前提に作業学習を通して育てていくことになる。」と述べている。この観点からも、キャリア教育の視点から高等部段階での生活単元学習や作業学習を検討することには大きな意味があると考えられる。

そこで、これまでの取組を踏まえて、普通科は、生活単元学習等において各学年を通じたキャリア発達を促す指導内容の系統性について整理すること。また、産業科は、引き続き技能検定に向けた取組であるキャリアトレーニングの授業を作業学習の一環として位置付けて、充実を図りながら研究を進めていくことにした。

## 2 研究の目的

- (1) キャリア教育について理解を深める。
- (2) キャリア教育の観点から教育内容の継続性等を考える。
- (3) キャリア教育の観点から作業学習の内容を考える。

## 3 普通科・産業科の取組

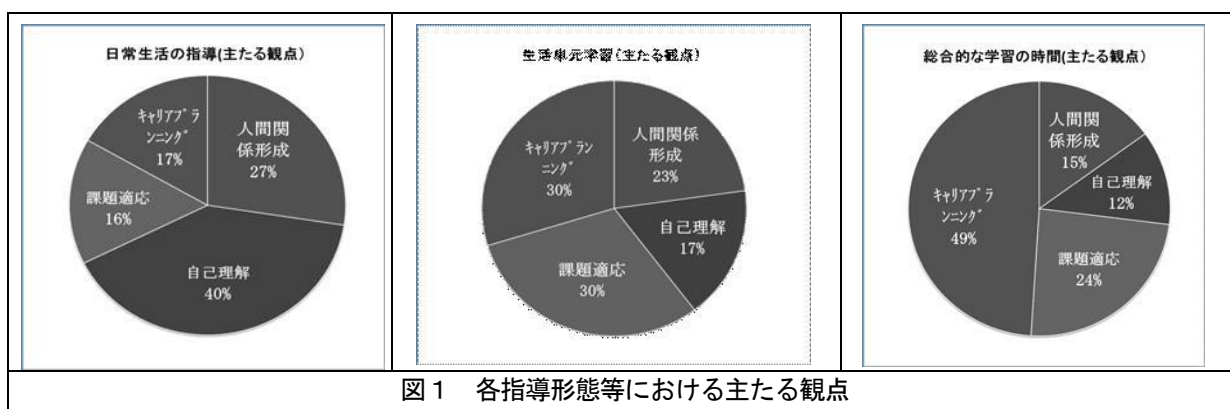
### (1) 普通科

#### ア 平成27年度

教科等を合わせた指導等の特徴を把握し、指導の効率化（同じ題材でもねらいを明らかにすることで指導の重複を避ける等）を考えるため年間指導計画から「観点位置付けシート」を作成し、整理を行った。なお、生活単元学習については、平成25年度の分類を「4領域8観点」から「基礎的・汎用的能力」に観点を整理したこと（表1）に伴い、まとめ直した（図1）。

表1 「基礎的・汎用的能力」についての観点整理

基礎的・汎用的能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
	社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で基礎となる能力	子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	「働くこと」を位置付け、自ら主体的に判断しキャリアを形成していく力。社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる
観 点 マ トリ ック ス で の 観 点	他者の個性を理解する力・他者に働き掛ける力(他者理解・人との関わり)	自己の役割の理解(自己理解)	情報の理解・選択・処理(情報収集と活用)	働くことの意義や役割の理解(やりがい・働くことの意義)
	チームワーク・リーダーシップ(集団参加・協力・共同)	自己肯定感・主体的行動	課題発見・計画立案(目標設定)	多様な生き方の理解(情報収集と活用・社会資源の活用・法や制度の理解・金銭の扱い・消費生活の理解)
	コミュニケーションスキル(意思表示・場に応じた言動)	忍耐力・ストレスマネジメント	実行力・評価・改善(自己選択・振り返り・自己調整)	将来設計・選択・行動と改善(習慣形成・進路計画・自己選択・振り返り・自己調整)



この結果、「日常生活の指導」では「自己理解」など、自分の役割を果たす係活動に関する内容が多いこと、「生活単元学習」では、「課題適応」や「キャリアプランニング」など、社会自立を目標に、それに適応する力をねらいとした内容が多いこと、「総合的な学習の時間」では、「キャリアプランニング」などの「働くことの位置付け」や「多様な生き方」に関する指導内容が多いことが分かった。このように指導形態によってねらいとする「育てたい力」が違うということは、同じように校外学習を単元として取り上げたとしても、生活単元学習では課題解決力に、総合的な学習の時間では情報収集力に、それぞれ力点を置いて授業を展開しており、相補って学習活動が充実されているとも考えられ、重複して取り上げられる題材や単元をどのように精選するかは、単純ではないと考えられる。また、学年間では、こういったねらいの差違がほとんど見られず、ここから指導内容の系統性については、更に具体的な内容から検討することが必要であることが示唆された。そこで、次年度の取組に向けて、各指導形態等での単元の整理や指導の系統性について意見集約を行いながら、合わせて重点が置かれているねらいから、キャリア教育全体計画の指導形態における目標の内容について、一部変更案を示した。

## イ 平成28年度

これまでの普通科「各教科・領域等におけるキャリア教育指導のねらい」の研究を踏まえて、今年度は「領域教科を合わせた指導等（日常生活の指導、生活単元学習、総合的な学習の時間）について、3年間を見通した指導内容の検討」を行うことにした。すでに平成27年度にはキャリア教育の視点にたった各学年の生活単元学習の授業内容をまとめているが、それを基に、他の指導形態についても関連付けながら指導内容の一覧表を作成し、系統的、段階的な学習を行い、より一層キャリア教育指導の推進に資することを目的とした。

まず、一覧表作成にあたって、キャリア教育全体計画の日常生活の指導、生活単元学習、総合的な学習の時間における目標を明示した。これは、同じ項目であっても、各教科等の目標によって取組や学習内容が変わってくることを改めて、授業者に意識付ける意味がある。また、生活単元学習にホームルーム活動の内容を位置付けているが、これは、本校普通科ではホームルーム活動の内容を生活単元学習で扱っており、3年間の内容のつながりを把握するため、ここに位置付けた。こうした大枠を基本として、これまでの各学年の教育活動について検討を重ね、内容の精選を行いながら、一覧表にまとめ、最終的には、大きく4項目（「日常生活と家庭生活の自立」、「学校生活と地域生活の自立」、「社会との関わり」、「社会生活との関わり」）にまとめ、その中を、更に18の小項目に分類して、整理した（表2 次頁）。

今年度は、一覧表の作成で終わり、実際の活用に至っていないため、分類や内容が粗削りでどのように活用していけば効果的なのか、そういった検討もまだまだ不十分である。しかし、今回の一覧表の作成を通して、ホームルーム活動とその他の活動の関連が明らかになったこと。また、各学年での話し合いで、指導内容が具体的になり、役立ったという意見が聞かれたことは、一覧表作成のメリットであったといえる。反対にデメリットとしては一覧表の内容に捕らわれるのではないか。教師主導の学習にならないか、といったことを危惧する意見もあった。社会に出て通用する力を身に付けるには、高等部の3年間は決して十分な時間とは言えない。限られた時間を最大限に使い、生徒一人一人が必要な力を身に付けるために、まずは来年度から一覧表を基に系統的、段階的な指導内容で年間指導計画を立案し、そして生徒の実態に応じてそれぞれのクラスで、適切な時期（学期末や学年末）に学年や全体での振り返りを行い、到達度を確認しつつ、指導内容の練り直しをする指標として役立てていきたい。内容を消化すればいいといったものではなく、実践を通して吟味しながら改善を図り、よりよいものを作り上げていきたいと考えている。

また、日々の授業を話し合う中で、各々の教員がこれまで蓄積してきた教材の共有化を望む声もあり、一覧表作成後には、授業で使用している教材や資料データの蓄積にも取り組み始めた。データの分類、蓄積は、教材準備の時間短縮などにつながるが、教材の使い回しにより新しい発想が生まれなかったり、教材に生徒を合わせたりする危惧もある。データ蓄積の意味を十分に理解した上で、新しいものも生み出し共有していくといった活用方法も今後の課題となってくる。

表2 領域教科を合わせた指導等の指導内容一覧表		キャリア教育全体計画との関連(各教科・領域等におけるキャリア教育指導のねらい)	
日常生活の指導	生活単元学習	総合的な学習の時間	
・集団生活に必要な活動を自分で判断して行動する。 ・TPOに応じた言葉遣いや礼儀を身に付ける。	・卒業後の生活に必要な知識、技能や態度を身に付ける。 ・消費生活や余暇活動など、生活を豊かにする行動に主体的に参加する。	・身近な地域や国際社会に興味を持つ。 ・産業現場の人や卒業生と交流し、進路について意識を深める。	
	(ホームルーム活動)		
	1年生 好ましい人間関係を育てるために交流の機会を積極的に設けるなどして、将来豊かな人間関係を築くことのできる能力や態度を養う。 ホームルーム活動 内容 合計 35 (※人権・平和教育主題)	2年生 集団の一員として振舞いをし、好ましい人間関係を築くことのできる能力や態度を養う。 ホームルームや学校の生活づくり 1年生11 2年生11 3年生9 重複学習字級11・12	3年生 将来豊かな生活を営むための基本的な生活習慣を身に付けるとともに、好ましい人間関係を築くことのできる能力や態度を養う。 1年生15 2年生14 3年生17 重複学習字級6・7
	1年生 ホームルーム内容 学内 1 学外 1 2 (心の健康) 3 2 (冬の健康と予防)	2年生 ホームルーム内容 学内 1 学外 1 3 (心の健康) 2 1 (スポーツと健康)	3年生 ホームルーム内容 学内 1 学外 1 3 (心の健康) 2 1 (スポーツと私)
健康 体力作り	・排せつ、清潔、健康 ・手洗いやうがい ・体力作りに関する意識付け ・健康管理(肥満の改善)		
清潔 衣類	・身だしなみ ・衣類の正しい着こなし ・ハンカチの扱い ・衣替え		
住生活 清掃活動	・整理整頓 ・清掃 ・清掃用具の適切な使用 ・場所等に合わせた清掃方法の理解 ・校内表に努めようとする意識付け		
食事指導 調理実習	・食事 ・給食準備 ・配膳技術の習得 ・配膳場面、日本生活への応用 ・エプロンの着方、たたみ方 ・テーブルマナーの向上(箸の使い方)	2 2 (食事と健康) 2 2 (食事と健康)	2 2 (食事と健康)
防犯学習		2 2 (災害への対策) 2 2 (災害への対策)	2 2 (避難訓練)
学校行事		1 1 (運動会) 2 1 (宿泊研修) 2 1 (文化祭に向けて)	1 1 (運動会) 2 1 (修学旅行) 2 1 (文化祭に向けて)
学校生活と地域生活		1 1 (運動会) 2 1 (文化祭に向けて)	1 1 (運動会) 2 1 (修学旅行) 2 1 (文化祭に向けて)

の自立	個別学習 カレンダーの原方	1 1 (1学期の反省) 1 2 (夏休みの過ごし方) 2 1 (2学期の心構え) 2 2 (2学期の反省) 2 2 (冬休みの過ごし方) 3 1 (新年を迎えて) 3 1 (1年間の反省) 3 3 (進級に当たって) 2 2 (交通安全)	1 1 (1学期の反省) 1 2 (夏休みの過ごし方) 2 1 (2学期の心構え) 2 2 (2学期の反省) 2 2 (冬休みの過ごし方) 3 1 (新年を迎えて) 3 1 (1年間の反省) 3 3 (進級に当たって) 1 2 (交通安全)	1 1 (1学期の反省) 1 2 (夏休みの過ごし方) 2 1 (2学期の心構え) 2 2 (2学期の反省) 2 2 (冬休みの過ごし方) 3 1 (新年を迎えて) 3 1 (1年間の反省) 3 3 (進級、卒業に向けて)	
	交通安全学習	・通学の歩き方(ヘルメット使用の徹底) ・始発の乗降方法 ・自転車の乗降方法 ・歩行者の歩行方法 ・通学安全教室	1 1 2 (交通安全)	1 1 2 (交通安全)	
社会との関わり	社会 地域連携 主権者教育	・主権者教育 児童生徒代表員選挙 選挙 児童生徒総会 ・地域への活用	1 1 2 (地域課題の気づけ方) 3 2 (児童生徒代表員選挙)	3 2 (児童生徒代表員選挙)	・学校周辺、西予市内について知る ・南予地域について知る (自分の住んでいる所を中心に) ・愛媛県について知る ・松道府県を知る (修学旅行を通して) ・行政機関の役割と利用
	情報教育 選別 (ふれあい園)	・スマホの使い方、ネットトラブル ・アプリ(有料、無料)、ゲーム課金について ・講演会参加 ・顧問管理や生員制(園の導入を通して、四季の野菜や植物を知る) ・一人一冊読書管理 ・収穫祭(園)開催(さつまいも園圃クラスマツチ) ・季節の変化と生活 ・人々のつくり			・ふれあい園の利用
社会生活との関わり	読書 創作活動	・子びん圃 ・読書感想文 ・ボクスター制作(運動会、文化祭、人権、交通安全等) ・いろいろな材料を使った制作活動(運動会、文化祭や卒業制作展に向けて)	1 1 (新しい学級) 1 1 (学校の楽しみ) 1 1 (読者の生活と学習) 1 2 (自分と人の立場) 2 2 ※地域交流の目的 3 2 ※社会の根柢と準備 3 1 (読る姿に向けて)	1 1 (新しい学級) 1 1 (新しい学級) 1 1 (読者の仕事) 1 1 (力を合わせて)1-3年 1 2 ※仲間意識 1 2 (家の手伝い) 2 2 ※地域との交流を深める 3 2 ※読書と差別 3 1 (読る姿に向けて)	
	読書学習 作業時間	・読書の仕方 ・電話のかけ方(仕事を休む、遅刻する場合等)	1 3 (読書の楽しみ) 1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習) 1 2 (社会生活とマナー) 2 2 (読者の生活と学習) 2 2 (読者の生活と学習)	1 3 (読者の生活と学習) 1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 1 2 (社会生活とマナー) 2 2 (読者の生活と学習) 2 2 (読者の生活と学習)	・学校周辺の福祉事業所見学 (職業学園、西予市民病院読書員やグループに分かれて、あいま、希望の寮、KOHIA等の見学) ・自分が住む地域、または希望するサービス別福祉事業所見学 (西予市役所、フジ養育院、フレンド、八つ能工房、夢とまご&龍の家の見学) ・読書実習、個人実習 ・福祉制度について ・福祉制度について ・合同研修会(あまふら)への参加
社会生活との関わり	挨拶指導 言葉遣い (愛媛の言葉)	・自主的な挨拶 言葉遣い ・敬語	1 3 (読者の生活と学習) 1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	1 3 (読者の生活と学習) 1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	
	校外学習 体験活動	・休み時間の過ごし方 (身近な赤紙活動(トランプ、オセロ、かるた等)の実践)	1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	・仕事と余暇の関係(工賃・給料の使い方) ・有料の余暇活動体験 (つうお、ホーピング、買い物、予約方法等)
社会生活との関わり	校外学習 体験活動	・公民館、公民館活動等の利用とマナー ・特別家、重宝の貸付、調べ方、市面での立役りや購買の支払い方法 ・小まなび(小まなびの使い方と計算機の使用) ・校外学習の計画の立案 ・買い物手帳	1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	1 3 (読者の生活と学習) 2 3 (読者の生活と学習) 3 3 (読者の生活と学習)	・食品講座、消費者講座 ・小まなび(小まなびの使い方) ・福祉制度の利用(福祉の活用) ・卒業制度について
	社会生活との関わり	男女交際について	1 2 (男女の違い) 2 2 (男女交際のエチケット)	1 2 (男女の違い) 2 2 (男女交際のエチケット)	

## (2) 産業科「キャリアトレーニング」の取組

平成26年度から県教育委員会の主催で、「愛顔のえひめ特別支援学校技能検定」(以下「技能検定」という。)が始まり、高等部では産業科を中心に技能検定に向けた取組を始め、今年度3年目を迎えた。

「キャリアトレーニングを通して、卒業後の進路に結び付く力を付ける。」という目標の下、3年目の平成28年度からは、技能検定への取組(キャリアトレーニング)を作業学習の中に位置付けて取り組んだ。

### ア 技能検定について

県内の特別支援学校に在籍する生徒を対象として、生徒が作業学習等に目的意識や目標を持って取り組み、身に付けた知識、技能、態度を産業現場の専門的な視点から評価及び認定を受けることを通じて、生徒の働く意欲や自信を高めるとともに、企業や社会一般の人々に障がいのある生徒の力をアピールし、その雇用の促進を図ることを目的として実施されている。平成28年度からは、清掃サービス部門、接客サービス部門、販売実務サービス部門に、情報サービス部門が加わり、4部門で実施されている。

検定方法は、技能検定評価表に基づき審査員が評価を行い、評価結果を基に技能検定実施委員会で審議し、愛媛県教育委員会が認定証(1～10級)を授与する。平成28年度から、県検定(年2回)と地区検定(2回)が行われるようになった。地区検定は、清掃サービス部門の5種目(机拭き・自在ぼうき・水拭きモップ・ダスタークロス・掃除機)について、本校で実施した。

### イ 技能検定に向けた「キャリアトレーニング」の取組について

本校においては、産業科の作業学習の時間に、週2時間「キャリアトレーニング」を実施し、技能検定に向けて取り組み、働くために必要な意欲や態度、知識、技能等を身に付けるとともに、就労に向けて役立つ経験を積みながら、働く習慣を身に付けことを目指して取り組んだ。

### (ア) 活動班

活動班は、技能検定の部門と同じ次の四つの班で活動した。

- ・清掃サービス班(清掃業務における基本的な清掃についての実習)
- ・接客サービス班(飲食店における接客業務についての実習)
- ・販売実務サービス班(スーパー等の小売店におけるバックヤードの業務についての実習)
- ・情報サービス班(文書作成や表計算を行う業務についての実習)

### (イ) 対象生徒

対象生徒は産業科の生徒(1～3年)として、生徒への活動希望調査を行い、班編成を行った。普通科の生徒においては、本人やクラス担任の希望に応じて、キャリアトレーニングへの参加を検討した。平成27年度は2名、平成28年度は6名の普通科の生徒がキャリアトレーニングに参加した。

### ウ 活動内容

産業科の作業時間は週11時間あり、その内金曜日の5・6校時を年間通して実施した。産業科の担任・副担任を中心に、清掃サービス班5名・接客サービス班3名・販売実務サービス班3名・情報サービス班2名を配置して指導支援を行った。

各班それぞれに県が作成した技能検定のテキストを基に、手順表・解説・評価表を通して指導支援を行った。

また、実技指導アドバイザー（技能検定各種目に係る企業関係者）を招へいし、専門的スキルの指導及び指導方法の助言を受けた。平成27・28年度ともに、清掃（トータルビスサービス：代表取締役）、接客（喫茶業生活衛生同業組合：理事長）、販売実務（フジ宇和店：店長）の3名の実技指導アドバイザーが年間2回来校し、専門的なアドバイスを受けた。

#### エ 技能検定への参加

キャリアトレーニングの活動班に所属する生徒を対象として、受検者（本校代表）を選出した。技能検定への参加状況としては、平成26年度は本校から25名の生徒が検定に参加し、平成27年度は41名の生徒が参加した。清掃部門については、平成28年度から、地区検定も行われ、県検定には情報サービス部門も加わり、地区検定と県検定を合わせて、46名の生徒が参加した。普通科の生徒も5名参加した。

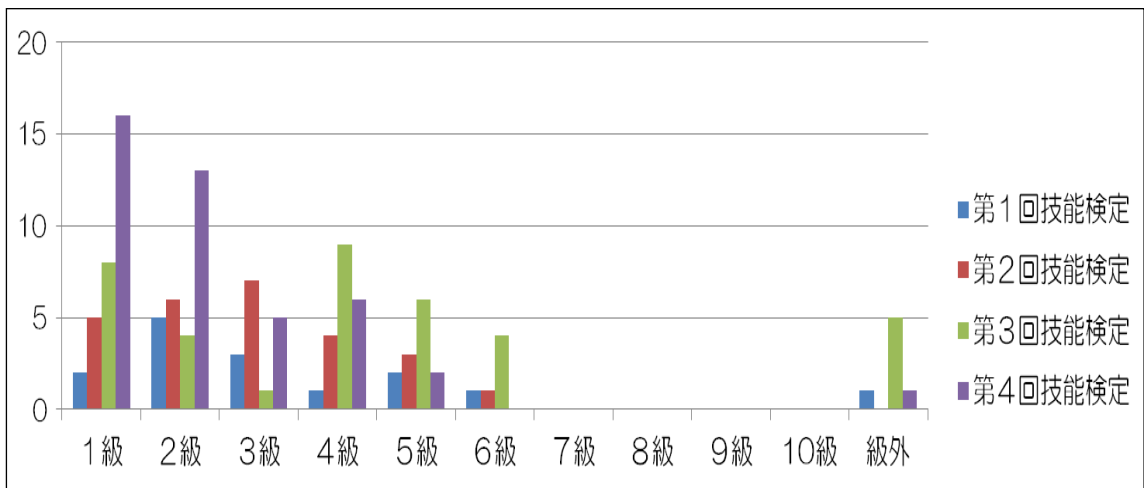


図2：平成26・27年度の各認定級の取得者数

技能検定に臨んだ生徒たちは、それぞれ取得した級は違うが、確かな経験を積むことができている。図2のグラフは、平成26年度2回、平成27年度2回、計4回の技能検定で取得した級とその人数を示したもので、各級それぞれ左から第1回～第4回の技能検定で取得した人数を示している。本校からの受検者数は、第1回が15名、第2回が24名、第3回が34名、第4回が38名と毎回人数が増えた。そのこともあり、1級取得者も回を増すごとに増えてきている。4回の検定で、1級を取得した種目別人数は、机拭きが9名、自在ぼうきが5名、水拭きモップが2名、ダスタークロスが4名、掃除機が2名、事務所清掃が1名、喫茶サービスが4名、商品化が4名であった。級外となった生徒は、7名おり、商品化が4名、自在ぼうき、ダスタークロス、掃除機に1名ずついた。



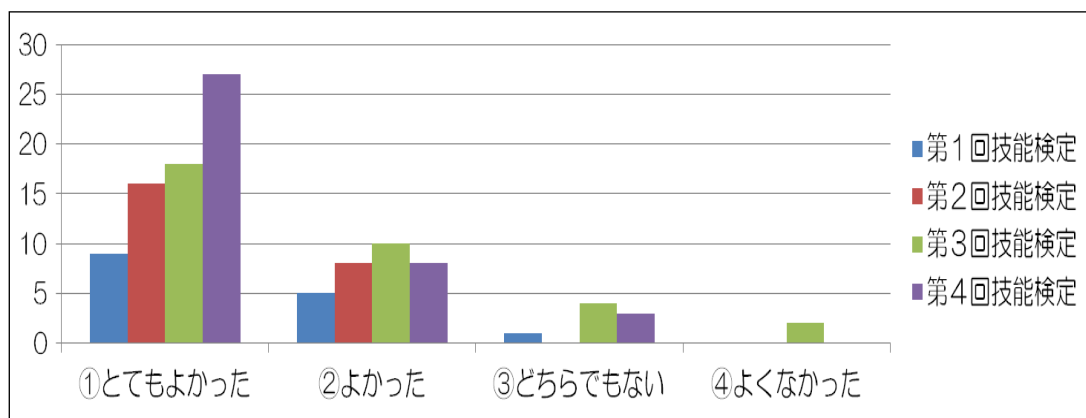


図3：技能検定を受けてどう思ったか（アンケート調査より）

技能検定後には、検定結果や評価表を配布し、毎回、生徒・保護者・教員を対象にアンケートを実施している。検定を受けた生徒に「どう思ったか」の質問に対して、「とてもよかった」「よかった」「どちらでもない」「よくなかった」の4つの選択肢で回答された結果が図3の棒グラフである。この結果、「とてもよかった。」を選ぶ生徒が、回を増すごとに増えており、理由を聞く質問では、「自分の力が出せた。」や「いい級が取れてよかった。」、「一生懸命頑張ったから。」など、努力してよかったという達成感を感じている生徒の意見が多かった。また、思っていた級が取れなかった生徒も、「まだまだ力不足だった。」や「次も頑張りたい。」など、評価表を見て、自分の課題を受け止め、前向きに考える生徒が多くなっている。「将来に役立つ」や「目標を持って取り組む姿勢が身に付いた。」「声をはっきり出したり、挨拶の習慣が付いた。」など、検定そのものではなく、そこから得られた自分の力に気づき始めている生徒の回答も回を増すごとに増えてきている。別の質問で、「検定をしてどうだったか。」に対しても、「検定だけ頑張るのではなく、ふだんの生活の中で、技能検定で学んだことを生かしていくことが大切だと思う。」や「これからの学校生活に生かしていきたい。」「もっと学んで社会に生かそうと思った。」などと、卒業後の働く生活を意識して取り組む生徒がアンケートの文面から読み取れた。

#### オ まとめと今後の課題

技能検定も3年目となり、平成27年度卒業生の中には清掃業務やスーパーでの販売実務に携わる生徒が出てきている。平成28年度の3年生にも清掃や接客、販売実務の仕事を希望している生徒がおり、進路に結び付きつつある。このようにキャリアトレーニングでの経験が、少しずつ自信につながり、現場実習や進路において成果が出てきていることを感じる。

一方で、技能検定に必要な物や場所、指導者の数に限りがあることや、技能検定用の清掃道具と普段の清掃用具の違いなどから、ふだんの清掃に十分に生かされていない状況や清掃道具の管理の仕方、意識の継続につながる環境整備が進んでいない面もある。例えば、自在ぼうきは保管時には毛先が床につかないようにフックなどにつり下げることが基本となるが、これが行えていない。毛先を直に床に着けた



ままにして置くと、毛先が曲がって使えなくなり、新品に取り替えなければならなくなるが、こういった道具を大切に扱う意味が十分認識されていない。身だしなみや挨拶は、ふだんの生活の中でも、継続して指導・支援ができるような工夫が必要であるし、手洗いなどは販売実務部門の生徒に模範演技させ、クラス全員に広めるなど、生徒同士が学び合う環境作りにも工夫が必要である。また、学校生活全体に意識を向けるよう活動日誌の目標に日常生活でも使える内容を考えさせ、達成できたか振り返る記録の仕方にも工夫し始めた。こういった取組を進めるためには、まず教員自身の意識改革や指導力の向上が必要であり、早い時期から意識や技術を統一する研修の必要性も感じている。また、現在は生徒の希望を優先した作業種目で班編成を行っているが、生徒の特性を考慮することも必要である。今後、産業科の既存の作業班との関連なども精査した作業学習の在り方も含めて、卒業後の働く生活を意識したより良い学習内容について検討していきたい。

#### 4 おわりに

高等部ではキャリア教育の視点から、普通科・産業科のそれぞれで取組を進め、普通科では指導内容の系統性を図り、産業科では清掃や接客サービスなど、新しい作業種目の開発に向けた成果を挙げることができた。しかし、双方の成果が部全体に浸透していない部分もある。普通科が作成した一覧表は、産業科生活単元学習の指導の系統性についても示唆を与えるものであろうし、産業科で取り組んだ技能検定種目のスキル（例えば、自在ぼうきの使い方や机の拭き方など）や振り返りの仕方などは、普通科の作業学習にも生かすことのできるものでもある。教育課程の違いなどから、それぞれで生活単元学習や作業学習に焦点を絞って取り組んできたが、今後は、課題を共有できる日々の授業についてキャリア教育の視点で振り返る事例研究にも取り組みたい。

平成23年度中央教育審議会の答申では、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。その上で、菊地（2013）は、「キャリア教育とは、能力や態度の育成をとおしてキャリア発達（社会の中で役割を果たすことを通して自分らしく生きる過程）を促すことであり、教師が児童生徒に教え込む性質のものではなく、児童生徒本人が授業や、学習上・生活上経験したことについて『振り返り』をとおして言語化や文字化することにより、自分なりに意味付け、価値付け、重み付け、方向付けしていくことを重視し、支援によってその変化、発展を促すものである」と述べている。ともすれば、高等部では、キャリア教育を卒業後の生活をイメージした進路指導の一環として捉えがちにはなるが、その意味を改めて確認し、生徒一人一人が、主体的に集団や社会に貢献する力が身に付くよう育てていきたい。

#### 参考文献・図書

- (1) 上岡一世 2013 勤労観・職業観がアップする！ キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業作り 明治図書出版
- (2) 菊地一文 編著 2013 実践キャリア教育の教科書 特別支援教育をキャリア発達の視点で捉え直す 学研教育出版